目次

津波ハザードマップ

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

津波ハザードマップの構成と活用について ・・・・・・・・ 1

ハザードマップの基礎情報について ・・・・・・・・・・・・ 2

ハザードマップの見方について ・・・・・・・・・・・・・・・ 3

津波ハザードマップ（津波災害予測地図）・・・・・ 4～37

防災ガイド

津波発生に関する情報について ・・・・・・・・・・・・・・・ 38

地震・津波発生時にとるべき避難行動 ・・・・・・・・・・・ 39

避難時の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

想定される津波の影響及び有効な避難対応 ・・・・・・・ 40

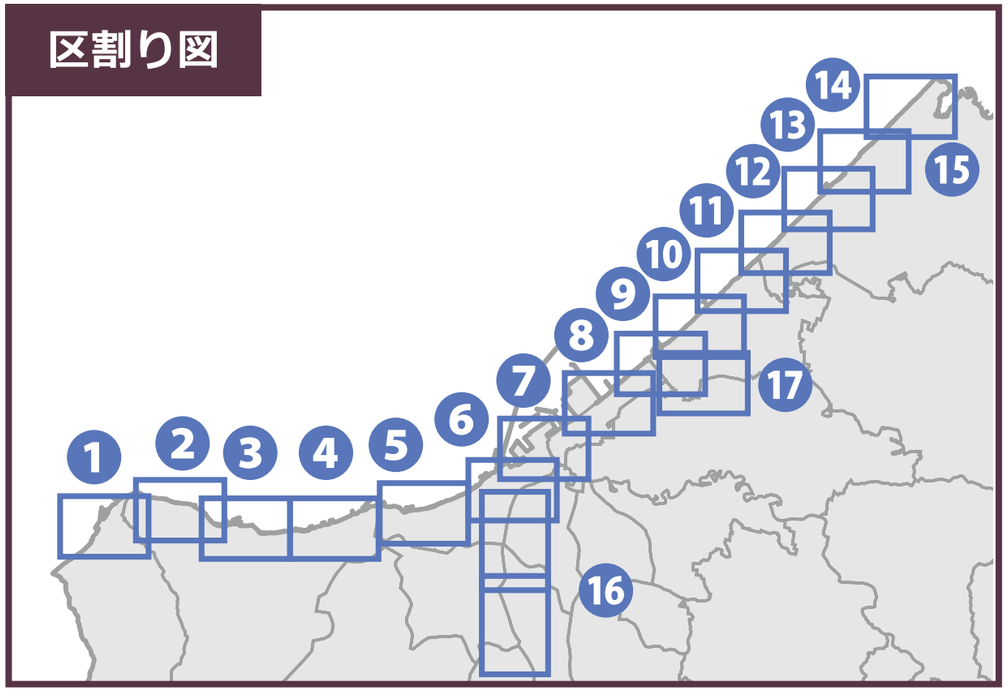
災害用伝言サービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

上越市安全メール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

非常持出品・備蓄品リスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

番号	ページ	対象となる区
❶	P.4 － 5	名立区
❷	P.6 － 7	谷浜・桑取区
❸	P.8 － 9	谷浜・桑取区
❹	P.10－11	谷浜・桑取区
❺	P.12－13	直江津区
❻	P.14－15	直江津区・有田区
❼	P.16－17	直江津区・八千浦区・頸城区
❽	P.18－19	八千浦区
❾	P.20－21	大潟区
❿	P.22－23	大潟区
⓫	P.24－25	大潟区
⓬	P.26－27	柿崎区
⓭	P.28－29	柿崎区
⓮	P.30－31	柿崎区
⓯	P.32－33	柿崎区
⓰	P.34－35	有田区・春日区・高田区
⓱	P.36－37	頸城区

区割り図



はじめに

この津波ハザードマップは、平成 29 年 11 月に新潟県が公表した津波浸水想定（令和 2 年 1 月に新潟県による津波災害警戒区域の指定に伴い確定）に基づき作成したものです。

市では、新潟県が公表した津波浸水想定を踏まえた津波対策を検討するため、新潟大学災害・復興科学研究所に委託し、専門家※1 による「当市に影響を及ぼす津波の発生頻度や沿岸部への津波到達時間と津波高などの調査※2」を独自に行いました。

調査の結果、大規模なプレートの活動により巨大な津波が発生する太平洋側に比べ、日本海側は、活断層の活動によるものであり、**「活断層の活動頻度は、数千年に一度と『低頻度』である」**こと、さらに、地震の規模が小さく、また、水深も浅いため**「太平洋側のような巨大で幾度も押し寄せるような津波は発生しない」**ことが想定される一方、津波を発生させる震源域（活断層の位置）が陸地から近いため、**「短時間で津波が到達する」**という特徴があることがわかりました。

このハザードマップを活用し、皆さんの住む地域の**“津波の危険性を正しく知る”**とともに、地域における防災学習や避難訓練などを実施し、**“強い揺れを感じたら津波を想定して適切な避難行動をとる”**ことができるよう準備しておきましょう。

※1 調査いただいた専門家の皆さん（敬称略）

卜部（うらべ） 厚志（あつし） 新潟大学災害・復興科学研究所 教授
佐藤（さとう） 比呂志（ひろし） 東京大学地震研究所 教授
福留（ふくとめ） 邦洋（くにひろ） 岩手大学地域防災研究センター 教授

※2「津波対策の方向性の検討に係る調査研究」（平成 30 年 12 月～平成 31 年 3 月）
①津波の発生原因となる地震の発生間隔の調査（市内 2 箇所で津波堆積物調査の実施）
②新潟県公表の津波浸水想定の解析（地域毎の浸水開始時間などの解析）
⇒2ページ参照
③上越市内の地域ごとの津波対策の提言（現地踏査により地域ごとの避難対応の提言）
⇒40ページ参照

津波ハザードマップの構成と活用について

知る
2～37 ページ

当市における津波の特徴と津波浸水想定を正しく知りましょう。



学ぶ
38～40 ページ

地震・津波発生時にとるべき避難行動や想定される津波の影響及び有効な避難対応を学びましょう。



備える
41～42 ページ

いざという時に速やかに避難できるよう、自宅等の浸水の危険性を踏まえ、避難場所や避難経路などを確認しておきましょう。

